

学会を担当して・・・

第 58 回日本医学検査学会実行委員長 齊藤幸弘

第 58 回日本医学検査学会（学会長：米坂知昭）は、(社)神奈川県臨床衛生検査技師会が担当し、開港 150 周年でにぎわう横浜市のパシフィコ横浜において平成 21 年 7 月 30 日(木)・31 日(金)・8 月 1 日(土)に開催しました。

開催前の 5 月、世界中が新型インフルエンザで混乱する中、学会までに終息するのか？開催を中止しなければいけないのか？大きなイベント開催を控え不安な日々を過ごしてきましたが、無事開催することができホッとしております。

真夏の開催のため参加人数への影響も心配でしたが、パシフィコ横浜の総合イベント会場を使用したことにより学会参加者は 3,600 名を教え、機器・試薬展示発表会へは延べ 36,000 人を超える方が入場され活気あふれる学会となりました。

今回、同時開催として第 3 回 AAMLS 学会、ケンサ EXPO'09 が企画されたことにより一部混乱を招いたことは事実ではありますが何とか準備も整い、多数の方に学会へ参加をいただき無事終了したことを心から感謝致します。

今学会は、「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるのか」をテーマに進めてきました。今までどおり医療の中での検査も重要であります、これからの健康社会を目的とするために私たち臨床検査技師はどのような事を考えれば良いのか、その一例となるよう、神奈川県特別企画として企画させていただきました。このようなことが例となるかはわかりませんが、一つのきっかけとなればと思っております。

臨床検査技師の貢献、「臨床検査技師、こんなこともしています」「地域への貢献」「医療チームへの参画」「知識で STD を撲滅しよう」など、神奈川県臨床衛生検査技師会が事業として行っている内容も含めいろいろ紹介をさせていただく機会を得たことでまた新たな発想が浮かんで来る気がします。

招待講演には、横浜出身である作詞家の阿木耀子さんを迎え「自分らしく生きるために」をテーマにお話をいただきました。

特別講演では、宮地勇人先生に「遺伝子検査の標準化と新たな展開」、高野靖悟先生に「高度医療への臨床検査技師チームの参画」、岩室信也先生には「若者たちの性感染症の現状と予防に求められる視点」をお話いただき、神奈川県と連携する内容での講演となりました。

この 3 年間いろいろな企画や準備を進めてきましたが、実行委員は約 40 名と少なく、実務委員として臨床検査技師養成の専門学校へご依頼し、2 年・3 年生約 90 名に授業の一環としてお手伝いをお願いしました。当初不安もありましたがさすが将来の検査技師、大きな問題もなく 2 日目には堂々と役務を遂行し感心させられました。

学会を担当し、全国から来た会員および展示発表会にご協力いただいた賛助会員の皆様にお褒めの言葉を頂いておりますが、不届きな点がございましたらこの場をお借りしお詫び申し上げます。

学会開催 3 日間のための 3 年間はあっという間に過ぎ、いずれ良き思い出となる事と信じております。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた(社)日本臨床衛生検査技師会と全国の会員の皆様に感謝致します。

神奈川県特別企画・・・

今回、開催県として神奈川県特別企画を計画した。臨床検査技師は病院の検査室の中で来た患者・検体を待っている。そんなネガティブなイメージを払拭し検査室から病院内にもう一步先の地域で新たな事業を展開している事例を取り上げ、臨床検査技師として貢献できること、さらには知名度アップにつながる事例を神奈川県から全国に発信することを目的に企画した。

◆特別企画Ⅰ

「臨床検査技師の貢献 臨床検査技師こんなこともしています」は、まったく新たな事業展開として開かれた検査室を目指し、検査室の存在性・必要性・重要性を病院内に広くアピールすることを実践的にしている事例を紹介していただいた。

◆特別企画Ⅱ

「臨床検査技師の貢献 地域への貢献」は、(社)神奈川県臨床衛生検査技師会が年間の行事の一環として実施している生活習慣病撲滅委員会の活動、心電図ボランティア、地区サーベアの実際、横浜市夜間救急医療センターの業務支援に関して報告と問題点について紹介していただいた。

◆特別企画Ⅲ

「臨床検査技師の貢献 医療チームへの貢献」は、病院は多くの国家資格を持った集団である。臨床検査技師は臨床検査のプロとして医療チームの一員として施設の中で活躍している事例を紹介していただいた。

◆特別企画Ⅳ

「臨床検査技師の貢献 知識で STD を撲滅しよう！」は、先進国で唯一 HIV 感染者が増加している日本において、STD 撲滅に向けて街頭キャンペーンやイベントを各技師会でも実施している。

神奈川県では STD 撲滅委員会を立ち上げ臨床検査技師が直接中・高等学校に出向き「出前授業」を行っている。今回は東京都・千葉県の技師会の担当者にも講演をお願いした。

特別企画を参考に臨床検査技師だから出来る業務を見つけていただければ幸いです。

【瀬戸享往】

開会式で日韓交流功労者表彰

前大韓臨床病理士協会長 宋雲興 氏が受賞

学会開会式が、7 月 31 日(金)午後 6 時 20 分より行われた。米坂知昭学会長の式辞に続き、主催者を代表して日臨技小崎繁昭会長が挨拶した(1 ページ参照)。

次いで、来賓として出席された(社)大韓臨床病理士協会安勇虎会長からお祝辞を頂戴した。会長は祝辞の中で「今学会を通じて両国の協会が未来指向的な関係に成長し、継続的な交流が出来ますよう願っています。・・・参加するたびに常に感じますが、先進的な学術大会のプログラム、体系的な行事運営、会員の積極的な参加意欲など、学術的な活動は我々訪問団には感動的であり、良い意味でのライバルで、我々が振り向く動機を与えてくれました・・・」と述べたのが印象的であった。次に日韓協定に基づく、交流功労者表彰が行われ、前大韓臨床病理士協会長の宋雲興氏が受賞され小崎会長より表彰状が渡された。

開会式では、日本の招待者である韓国代表団と台湾技師会を紹介したが、台湾からの参加者は第 3 回 AAMLS 学会には参加してはいたのだが・・・この式には出席されず、残念と同時に腹立たしさを禁じえなかった。更に、この開会式は招待講演に引き続き行われたが、日程がタイトとはいえ、会場準備の僅か数分間に、招待講演に参加していた約 1,000 名のうち 8 割程度が会場を後にする姿が情けなく恥ずかしい思いであった。再三のアナウンスに背を向ける姿は、海外のお客人にはどのように映ったのか聞いてみたい。会場で式を待つ人たちも、退席を注意する態度を示して欲しいと感じたのは司会者だけであろうか。

【高田鉄也】